

【姫路市立系引幼稚園】の取組

1 テーマ

心豊かで思いやりのある幼児の育成
— 自分も友達も大切にしながら —

2 テーマ設定の理由

本園の幼児は、集団生活が初めての幼児や核家族の幼児が多く、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞き入れたり、自分の気持ちを調整し友達と折り合いを付けたりする経験が不足していると思われる。

幼児は遊びの中で楽しさや面白さ、葛藤やつまずきなど心を動かす体験を重ねる中で、善悪の判断ができるようになっていたり、友達の立場や思いに共感できるようになっていく。そして、きまりの必要性が分かり、自分の思いも友達の思いも大切にしながらきまりをつくったり守ったりするようになっていく。

そこで、小学校への接続も視野に入れ、幼稚園生活や遊びを通して幼児期に道徳性・規範意識の芽生えを養い、自己肯定感や自尊感情を育むための援助や環境構成について研修を深め、心豊かで思いやりのある幼児を育てていきたいと考えた。

3 研究経過

(1) 1年次(平成30年度)の取組

①研究内容

- ・研究テーマを設定し年間指導計画を立てる。
- ・研究テーマに係る保護者アンケートを実施し、分析する。
- ・遊びや生活の中でのきまりを見直す。
- ・幼児期の道徳性・規範意識の発達について仮説を設定し、実践事例をもとに検証する。
- ・研究保育を実施し、教師の援助や環境の構成について見直す。
- ・姫同教研究大会の実践発表を通して園内研修を深め、思いやりを育てる実践を重ねる。

②講師招聘研修

○鳴門教育大学附属幼稚園 佐々木晃園長

- ・道徳性が芽生えてくる発達の道筋や、道徳性の芽生えを育む指導について学んだ。
- ・教師の援助(教導、誘導、省察促し、足場かけ、見守り)について研修した。

○人権教育課 西山指導主事

- ・幼児期の道徳性や規範意識の芽生えを養う保育のあり方について、小学校との接続を視点に、道徳教育と「特別の教科 道徳」について研修した。

③公開保育

- ・幼児期の規範意識・道徳性を育む環境構成や援助、自尊感情を育てるための教師の援助について研修した。

(2) 2年次(令和元年度)の取組

①研究内容

- ・2年間の実践事例を集約し、幼児期の道徳性・規範意識の発達についての研究仮説の実証に近付ける。
- ・遊びや生活の中でのきまりを再度見直す。
- ・研究保育を実施し、教師の援助の向上を図り、環境の構成を整える手立てを考える。
- ・幼稚園教育自主研究会を開催する。公開保育や実践発表、研究内容についての評価をもとに、さらに研修を深める。

②講師招聘研修

○鳴門教育大学附属幼稚園 佐々木晃園長

- ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』の「基本的生活習慣」「人との関わり」「動植物との関わり」から心の豊かさが育成されることを学んだ。
- ・幼児教育の構造と保育の評価、幼児期の規範意識・道徳性を育み自己肯定感を引き出す学級経営のための環境構成や援助、自尊感情を育て、自信をもたせる指導方法について研修した。

③幼稚園教育自主研究会の開催

○研究紀要の作成

○公開保育並びに実践発表、指導助言

○講演（鳴門教育大学附属幼稚園 佐々木晃園長）

演題：「心の豊かさをいかに育むか」

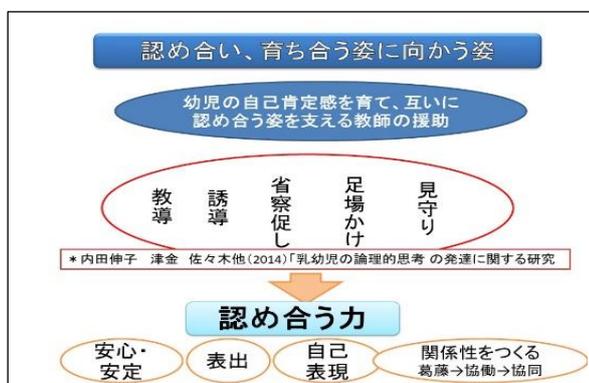
—非認知的能力と『幼児期の終わりまでに育ってほしい力』の10項目の活用の方略—

・道徳性の芽生えを育むために必要な教師の支援について、具体的な指導を受けた。

③小学校との接続

○アプローチカリキュラムの実践記録作成

「ひめじ保幼小連携教育カリキュラム【補足番】」を基に、研究テーマを視点とした実践記録を作成し、幼児期の教育と小学校教育の育ちのつながりについて研究を深めた。



(3) 3年次（令和2年度）の取組

①研究内容

○2年間の研究の実践検証

- ・日々の保育の中で研究内容を実践し、幼児の育ちを研究テーマの視点で振り返る。
- ・園内で公開保育を行い、幼児期の道徳性・規範意識の発達について検証する。
- ・自己肯定感、自己有用感を引き出す学級経営、教師の援助、環境の構成を整える手立てについて検証する

○小学校との接続に視点をあてた研修

②講師招聘研修

○兵庫教育大学 淀澤勝治准教授

- ・教師自身が感性を磨き教養を培い、幼児の輝きに眼と耳を向けていくことが大切であることを学んだ。
- ・なぜ道徳性の芽生えが大切なのかを、小学校との接続を踏まえ研修をした。

4 3年間の研究を終えて

(1) 成果

- ・幼児期の道徳性・規範意識の発達について、発達の過程で教師が必要に応じた援助や環境の構成をすることで、道徳性・規範意識の芽生えが養われていった。そしてその土台を支えるのは自己肯定感・自尊感情であることが分かった。
- ・きまりを守るだけでなく、考えたりつくったり守ろうとしたりする大切さを伝え、それに気付ける幼児を育む大切さを学んだ。
- ・実践事例の検証により、幼稚園教育で道徳性・規範意識の芽生えを養うことは、豊かな心を育み、学校教育における道徳教育の根幹となることを確信した。
- ・道徳性・規範意識は人間らしく生きていく中で欠かせない力である。この力を育むために、今後も幼稚園と家庭が一貫した教育方針を共有し、継続して丁寧な実践を積み重ねることが大切である。

(2) 課題

- ・今後も生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児期の教育に携わる教師としての使命を果たせるよう、教師自身も道徳性・規範意識をより高め、さらに研修を深めたい。
- ・今後、更に小学校の学習指導要領や教科書及び指導書を読み解き、幼稚園教育とのつながりを検証し、長期的な視野をもちながら、自己肯定感や自己有用感を育むための教師の援助や適切な環境の構成について研修を深めていきたい。

5 参考文献

- ・「ひめじ保幼小連携教育カリキュラム【補足番】」
姫路市教育委員会
- ・「心を育てる幼児教育」神長美津子 佐々木晃編著
東洋館出版社
- ・「幼稚園教育要領」「幼稚園教育要領解説」「小学校
学習指導要領特別の教科道徳編」 文部科学省